

基本目標1 若者が帰ってこられる産業をつくる	
提言	<p>【 「いいだ未来デザイン2028」次年度(H31)への提言 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域内経済循環 <ul style="list-style-type: none"> ・従来の「外貨獲得」の考え方だけでなく、田舎へ帰ろう戦略と順応する地域内経済循環思考を取り入れ、地域内乗数3(LM3)の指標を調査・研究されたい。 ●新たな産業振興と人材育成の拠点 <ul style="list-style-type: none"> ・新たな産業振興の拠点として南信州・飯田産業センターの役割は益々重要となる。管理運営力のある専門人材確保のため市は最大限協力するとともに、整備後の施設を活用し産業振興の拠点形成につなげるため、組織をあげマーケティングやマネジメント力向上に努められたい。 ・新産業への取り組みは重要だが、MRJの開発遅れなど、新たな産業振興として航空宇宙産業に特化することは危険である。一方、地場産業や手を打ち支えることが必要な弱い産業に対する行政の指向が見えない。このまま放置すれば衰退してしまう地場産業に対する目に見える支援こそ今必要と考える。地元企業が行政に何を求めているかを精査し、地域産業の育成に取り組まれたい。 ・(昨年に引き続いての提言事項)若者が帰って来られる産業をつくることを目標とするならば「若者が志向する産業とは何か」を捉え地域産業の実態との乖離等を勘案し、その上で政策的に何を支え育むかについて検討し取り組まれたい。 ●起業・就業支援 <ul style="list-style-type: none"> ・「I-Port」、起業家ビジネスコンペなど起業支援制度は整えられたが、まだまだ市民に認知されていない。より有効に活用されるために、飯田市HPのトップページから情報入手できるよう改善することや、受賞者を継続的に支援する仕組みづくりを検討されたい。
評価	<p>★ 【総合的な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「戦略」及び「ねらい」は概ね評価できるが、回帰率が示すように成果が出てきていない。一貫したキャリア教育に含む「大学生」、起業の気運を促したい「都市部の若者世代」とどう具体的に接点をつくっていくかを検討するなど、小戦略をさらに充実していくべきと考える。

基本目標1 若者が帰ってこられる産業をつくる	
評価 ①	「計画(戦略)は適正か」、「取組は的を射ているか」
	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域産業の将来を支える担い手・起業家の育成の取り組みなど、概ね評価できる。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者が帰ってこられる産業を作る、というのが、果たして若者が帰ってこられる産業とは何か解った上で展開しているのかが疑問。何かを掴むことも必要では。
評価 ②	「進捗状況確認指標、重要業績評価指標(KPI)は適正か」
	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域内回帰と定着率について今回から分離している点。これによりUターンする学生の動向把握がしやすい。 ・KPIの就職者数は、前年度を下回っているものの、基準値と比べた確認指標は上回っているため概ね評価できる。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「高校卒業生の地元就職者数」「進学者のUターン就職者数」は母数がわからないと判断することができないため、母数および率を併記されたい。 ・市田柿の出荷量は総量で表記しないと推移が分からない。また、売上高について、別冊データ集に掲載されたい。
評価 ③	「取組は良かったか」
	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新事業創出支援協議会「I-Port」の創設による地域の起業力や事業展開力の向上につながる取り組みは評価できる。 ・森林管理認証を取得したことは、地域産業の高付加価値化につながる展開と評価できる。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果実酒特区の認定は受けたが未だ具体的な方向性が示されない。現状を把握し生産者への支援を検討されたい。 ・「I-Port」による支援体制は整えられてきたが、まだまだ、市民の認知度が低い。飯田市HPのトップページから情報入手できるよう改善されたい。 ・利用可能な空地、空家の情報を把握し、企業誘致に結びつける仕組みづくりに取り組まれない(産業センター内に設置するなど)。
評価 ④	「時代や状況変化に対応しているか」
	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「都市部の若者世代に対し、飯田で起業する気運を促していきたい」とする姿勢は今後の時代認識にマッチしていると考えられる。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公的試験場を管理運営できる専門人材の確保について、具体的な方向性を示す必要がある。 ・昨年の提言にある、若者の志向調査などに取り組まれない。 ・新たな高度試験装置他、拡張される産業センターの人材育成、マーケティングを含むマネジメント力強化への支援。

基本目標2 飯田市への人の流れをつくる	
提言	<p>【 「いいだ未来デザイン2028」次年度(H31)への提言 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●目標設定など <ul style="list-style-type: none"> ・基本目標2「飯田市への人の流れをつくる」は最重点目標の一つともいえる。それだけに4つの戦略目標それぞれに対し、多少なりとも年次の自己目標を設定すると活動が見えてくるし、取り組みがいつも出てくる。一考されたい。 ・「いいだ未来デザイン2028」を進めるうえで飯田市人口の社会動態状況把握は極めて重要である。年度毎の転入・転出者数を人口ビジョンの中で指標として位置づけ進捗管理されたい。 ●田舎へ還ろう戦略 <ul style="list-style-type: none"> ・20地区が取り組む「田舎へ還ろう戦略」はいいだ未来デザインの最もコアな戦略の一つであり、チャレンジを成功させるためには市民の深い理解と創造性、各地区の知恵が欠かせない。自治振興センターを中心に今まで以上に戦略を「見える化」するなど、必要な行政支援を行われたい。特に地区指定ふるさと納税制度については、当初の目標を著しく下回る現状にあり、行政も当事者としての自覚を持ち各地区と一緒にあって真摯に取り組まされたい。 ●移住・観光 分析等 <ul style="list-style-type: none"> ・移住者、旅行者を誘引するための新しい地域振興策の取り組みとして、基本目標4「自然と歴史を守りいかし伝え、新たな文化をつくりだす」と連動した「コンベンションビューロー（高度な研究・誘客推進機関）」の設立を目指されたい。 ・移住の際のトータルコストの優位性、自然環境、暮らしやすさや子どもを産み育てやすい環境、2地域居住などの優位情報を民間関連業者などとも連携し発信してゆく仕組みづくりを検討されたい。 ・リニア新幹線開通を見据えた新たなターゲットエリアとして、横浜、相模原市等の神奈川県主要都市を視野に入れ情報発信してゆく事を検討されたい。特に横浜港は伊那谷の生糸で栄えた歴史があり、「物語」で繋がる都市間交流も考えられる。 ・これからの観光戦略にはインバウンドや首都圏からの研修受け入れ等の企画・運営力が不可欠である。地域連携DMO登録を目指す南信州観光公社との連携を強化し、強みである農家民泊、体験旅行を核に、遠山郷や天龍峡などの既存の観光資源を繋ぐ宿泊モデルの視点も大切である。 ・交流人口増を図るためにターゲットを明確にした取り組みが必要と考える。例として、若い女性をターゲットにした取り組みや、スポーツ交流と観光とを結びつけた取り組みを検討されたい。 ・飯田を訪れる人の行動パターン、行動範囲などの分析を徹底的に行い、確かな分析結果を基に交流人口増大戦略を立てられたい。 ●中心市街地 <ul style="list-style-type: none"> ・ピアゴ閉店後の対応は中心市街地のあり方を考える上でも極めて重要である。市街地の空洞化対策と共に市街地の「賑わい」「暮らし」の視点に立ち、行政と地域が緊密に連携し、閉店後の空間活用策に取り組まれたい。 ・今年度のAVIAMA総会や世界人形劇フェスを契機に、小さな世界都市・飯田としての意識高揚に繋げたい。第3期中心市街地活性化基本計画の策定に当たっては、その自覚と誇りを認識できる計画策定をされたい。
評価	<p>★ 【総合的な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフスタイルの変化を認識した上での取り組みを評価する。 ・観光と移住定住が混在している感がある。観光を切り口に交流人口、関係人口、活動人口、移住・定住人口へつなげていく体系を整理されたい。 ・「未来デザイン2028」人口ビジョン達成の人の流れをつくるメインの基本目標だが、そこからバックキャストで戦略が構築できているのか疑問である。 ・4つの課題に対する具体的な自己目標が見えないのが不満。

基本目標2 飯田市への人の流れをつくる	
評価 ①	「計画(戦略)は適正か」、「取組は的を射ているか」
	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地を中心拠点ととらえ、魅力づくりに取り組もうとしている点や「田舎へ還ろう戦略」の取り組みなど、概ね評価できる。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年の提言、「小さな世界都市」構築に向け、デザインコードの研究やICTを活用したアプリの開発研究などを進められたい。
評価 ②	「進捗状況確認指標、重要業績評価指標(KPI)は適正か」
	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南アルプスエリアを訪れた観光客数や子育て世帯の移住者数、UIターン就農者数、故郷に愛着を感じている高校生の割合を示している点など概ね適正である。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力・ブランドを磨き上げてというが、確認指標・KPIともに因果関係がわかりにくい。ズレている。 ・進捗状況確認指標には、人口動態の社会動態を目標に取り上げるべき。 ・目標値に対し、実績値がほぼ同等もしくはすでに達成されたものが多いことから、目標値の見直しを検討されたい。
評価 ③	「取組は良かったか」
	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20地区の個性を輝かせる、田舎へ還ろう戦略は評価できる。 ・「地域の魅力プロモーション」に、積極的に取り組まれている。 ・天龍峡温泉交流館「ご湯つくり」がリニューアルオープンし、43,000人を超える来館者があったことは、天龍峡再生や地域活性化の一つの拠点として評価できる。 ・丘のまちフェスティバル、丘のまちバルなどの各種イベントを開催し、多くの来街者により中心市街地の賑わいが広がってきていることは評価できる。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20地区の取り組む「田舎へ還ろう戦略」を「見える化」するなど、各地区の取り組みや事例をお互い学べる仕組みづくりが必要である。 ・地域が主体で取り組むことを基本に、当面は自治振興センターがリードし、ふるさと納税の実態について、原因の究明と改善をおこない、必要に応じ専門性を持った人材派遣や資金面での支援策を講じる必要がある。 ・県内市町村の中でも、特に飯田市よりも移住者の多い市町村が何をしているのか分析したうえで、他市町村との差別化を図る必要がある。
評価 ④	「時代や状況変化に対応しているか」
	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「就労」以外の移住希望という時代の流れを認識し対応している。 ・(株)南信州観光公社が進める日本版DMO正式登録を支援。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題はわかっていると思うが、相対的に深掘りが足りないのでは。言葉での表現は美しいが、実際はどうなのか、何が足りないかの分析がない。 ・飯田を訪れる人の行動パターン、行動範囲などの情報分析が不十分。また、分析から導かれる戦略が見えてこない。 ・移住戦国時代という認識で、都市間競争に打ち勝つためにもスピード感をもって対応されたい。 ・ピアゴ閉店への対応。

基本目標12 リニア時代を支える都市基盤を整備する	
提言	<p>【 「いいだ未来デザイン2028」次年度(H31)への提言 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全体 <ul style="list-style-type: none"> ・リニア関連事業は飯田市がかつて経験したことのない大規模な複合事業であり、従来の経験に頼った進め方では対応できない。飯田市の総合的マネジメント力が試されているといっても過言ではなく、リニア推進部を中心に市内の英知を結集し取り組まれない。 ・「長野県の南の玄関口」は飯田を基点とした視座の印象があるが、「メガリージョンオアシス」等、県外を基点とした視座で飯田市の位置付けを点検し、都市基盤整備のデザインに反映されたい。 ・SDGsは次の時代につながる世界共通の価値観であり「いいだ未来デザイン2028」全体にも通じるが市民には十分伝わっていない。基本目標12において具体的にSDGsの価値観を市民に分かり易く政策展開に盛り込まれない。 ●移転対応 <ul style="list-style-type: none"> ・多くの事業が同時進行で推進されるなか、移転を余儀なくされる方や「地権者」への配慮を常に心掛け、影響を受ける住民側に寄り添い住民との信頼関係構築に今まで以上に努められたい。また、移転先での円滑な地域コミュニティ確保へも目を向け、相談体制の強化等を検討されたい。 ●二次交通・新交通 <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少・高齢化社会における二次交通の福祉的充実益々重要となるが、一方、大交流時代を見据えた「楽しめるまち」を意識した二次交通やわくわく感のある徒歩や自転車での動線も重要となる。利用者数減少の要因分析やシミュレーションを行い、新たな発想の元での二次交通の政策立案に取り組まれない。 ・駅周辺整備デザイン会議の座長小澤一郎氏から提言もされたが、リニア新幹線開通に合わせ、今後急速に進むAIやIoTによる新交通システムの構築、自動運転への対応等について、飯田市が早く研究着手されたい。 ●道路河川等の社会基盤 <ul style="list-style-type: none"> ・(昨年に引き続いての提言事項)リニア・三遠南信自動車道関連の事業推進のために建設関連費が集中していく中、市民生活や安全にとって要望の高い道路・河川予算措置について方向を定め、地域全体の道路河川整備に不足が生じないことを考慮されたい。 ●公衆無線LAN <ul style="list-style-type: none"> ・公衆無線LANの整備について、インバウンドなど今後の需要を分析するとともに、先ずは地域拠点である各自治振興センター及び公民館への設置について検討されたい。
評価	<p>★ 【総合的な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅周辺整備、道路の新設改良、公共交通の在り方、関係自治体との連携など、同時進行で取り組まざるを得ない状況のなかで、大変な苦勞をされており概ね評価できるが、事業の進捗は順調とはいいがたく今後も影響を受ける市民の側に立った事業推進が必須である。またこの先10年、車社会が大きく変わる可能性があり、対応が必要である。

基本目標12 リニア時代を支える都市基盤を整備する	
評価 ①	「計画(戦略)は適正か」、「取組は的を射ているか」
	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本目標の設定は課題認識等概ね適正であるが、小戦略をさらに充実していくべきと考える。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> リニア関連事業で影響を受ける市民との信頼関係づくりに部署をあげ取り組むこと。
評価 ②	「進捗状況確認指標、重要業績評価指標(KPI)は適正か」
	<p>【評価できる点】</p> <p>【改善・修正が必要な点】</p>
評価 ③	「取組は良かったか」
	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題が多い中、概ね評価できる。 高校生を含む多くの市民がかかわるワークショップを開催し、駅周辺整備について考える機会を設けたことは評価できる。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「信州・伊那谷らしさを感じることができるようなリニア駅周辺の景観・環境・魅力づくり」を考えた時、交流広場や魅力発信施設、高架下空間の活用など、いつ頃までにどのような検討がされ、どのような形で市民合意がされるのか、手法やある程度の予定時期を示すことにより、良い意味での市民の機運が高まると感じる。
評価 ④	「時代や状況変化に対応しているか」
	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内10か所への公衆無線LAN整備の実施。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> リニア開通後の公共交通のあり方を早急に構築する必要があり、自動運転やEV・FCV、カーシェアリングなどへの対応と自転車の動線も考慮した道路整備を検討されたい。